

IV-7

多発性骨髄腫患者の将来予測

名倉英一

常滑市民病院 内科

【目的】

高齢者で発症が多い多発性骨髄腫患者の将来予測を試みた。

【方法】

厚生労働省の人口動態統計 1975 年から 2004 年までの多発性骨髄腫による年別死亡者数を解析し、2004 年度の多発性骨髄腫の死亡率と人口の将来設計を用いて多発性骨髄腫の予測死亡数と予測した。

【結果】

- 1、年齢階級別死亡率では 60 歳を越えると急激に死亡率が高くなり、85～89 歳が最も高いが、いずれの年齢階級でも男性の死亡率は女性より高率であった。
- 2、2004 年の骨髄腫死者数は 3,779 であるが、今後、2,020 年 4,890、2030 年 4,853、2040 年 5,005 と推計される。ただし、65 歳未満の死亡数は年々減少すると予測される。

【考案】

多発性骨髄腫は死亡者の実態から加齢により発症が増加することは明らかで、今後、人口の高齢化が進行するとともに患者の増加が予測される。